



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733

### 掲示板法話

## 他人事でなく 自分事

## 自覚を深め精一杯努めよう

毎年、夏になると全国各地で豪雨による災害が起こります。昨年は熊本県、今年七月、静岡県熱海市で大規模の土石流が起きて沢山の犠牲者が出ました。犠牲者やご近親の方々には心から哀悼の誠を捧げたいと思います。だが同時に、「他人事が我が事となる浮世かな」との厳しい戒めを心に留めるご縁としなければなりません。

当山の梵鐘に次のような言葉が記されています。

天下和順 日月清明 風雨以時

災厲不起 国豊民安 兵戈無用

崇徳興仁 務修禮讓

これは「仏さまが衆生済度のために遊行される国や地方は、仏の教化を蒙る」という前文に続く「仏説無量寿経・下巻」のお言葉です。書き下し文で表すならば、「天下和順し日月清明なり。風雨時をもってし、災害や疫病は起こらず、国豊かに民は安らかにし、兵士や武器は用いることがない。(人々は)徳を崇め、仁を興し、務め



て礼儀正しく謙讓(の心)をなす」となります。

昔の梵鐘が、戦時中に武器弾薬不足を補うべく供出させられたために、戦後まだまだ厳しい復興途上の時代に、ご門徒方の願いで新たに鑄造され、桑名の鑄物屋さんから板車で運ばれてきた梵鐘です。朝夕に鳴り響く鐘の音はこのような仏さまのご教化の心が込められているのです。だから、この鐘の音を聞く我々は、非戦平和の願いを忘れず、災害防止に協力し、またコロナのような疫病の感染防止のために皆諸共に協力したいものです。

防災ボランティアを養成する岐阜県のNPO法人の方いわく、「災害は他人事ではない。自分事と考えて、全国各地の被災地に救援活動に参加する人を育てたいと頑張っています」。この防災士養成塾には全国各地から若者たちが集まっています。

「他人事ではなく、自分事である」。この言葉に菩薩の心を見る思いがしました。防災活動が菩薩の心とは飛躍が過ぎるのではないかと、学者は批判なさるかも知れません。しかし、「開

発が悪い」などとただ評論家気取りの輩に比べれば、少なくとも「他人事ではない」という自覚に立ち、「利他的」に活動する人たちを菩薩道の始まりだと言っても良いのではないかと私は敬意を抱きます。思えば、私たちは、目に見えぬ沢山の菩薩さまのお働きに護られて、生かされてきたのではないのでしょうか。

今年も八月十五日、正午に平和の鐘をつく終戦記念日が巡ってきます。

「他人事ではなく自分事」と自覚の心を養い、少しでも仏さまの願いに沿うよう精一杯努めたいと思います。



### ☆行事ご案内☆

**秋季永代経** 講師九條孝義師(滋賀)

8月21日(土)・22日(日):両日共午後1時半

※お経開き招待者は21日(土)午前10時半

**盂蘭盆会(うらぼんえ)法要(6回目)**

8月14日(土)朝8時半 正信偈・焼香、法話

遺影飾ります。地元の方、納骨堂利用者等、ご家族揃ってお参り下さい。短時間で終了。お盆参りをお寺で一緒に絵手紙教室 8月はお休み、9月14日(第2火)午前10時10月の『百五銀行門展展』(10回目)の作品大募集中

歌声広場 8月はお休み、9月16日(第3水)午後1時夕方5時の鐘撞き、年中無休、誰でも撞けます。ご褒美に菓子進呈、子供に心の教育を、合掌できる子を育てよう!

門信徒会費巡回、裏面記載参照。7月末から8月上旬にかけて巡回。ご協力よろしく申し上げます。

善正寺ホームページ「三善善正寺」検索、1年分の寺報閲覧 毎日更新ブログ『住職と坊守のつれづれ日記』大好評!

開設13年で35万2千訪問、お悩み、メール相談大歓迎 一線会テレホン法話☎059-354-1454三重組5か寺の住職と若院らが週替りで3分法話。著書多数36年の歴史 善正寺プレバト俳句募集小4孫も参加、気軽に投稿下さい 新納骨堂後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

### ☆ 写真アラカルト ☆



### 坊守スケッチ

## 心のワクチンは大丈夫？



ワクチン接種が予定通りに進まないにも拘わらず、東京オリンピック開催を迎えました。国民の大半が、依然コロナ変異型ウィルスの強力な感染拡大に戦々恐々としています。果たしてコロナとの闘いはいつになったら終わるのでしようか？ 誰しも自粛疲れが既にピークに達しているではありませんか？

その上7月3日、大雨による静岡県熱海で発生した土石流災害で、甚大な被害と死傷者が出ました。コロナばかりに目を奪われ、自然の脅威への対策が疎かになっていました。これは地球と自然に対する人間の傲慢さへの警告と、受け止めねばなりません。

先日テレビで明治天皇の父、孝明天皇が天然痘を患って崩御されたことを知りました。死の間際にお見舞いを受けた孝明天皇は「あなたに感染しないか心配だ」と息子の身を案じられました。明治天皇は「私は種痘のワクチンを打ちましたから大丈夫です」と答えられました。

その当時感染力の強い天然痘が猛威を奮い、それを治すワクチンがジェンナーによって発明されて克服出来ました。コロナもワクチンが効いて、世界の人々が安心して交流できる日が来ると信じています。たまたま日本がオリンピック開催と自然災害が重なり、かつて

ない試練に立たされています。

しかしご先祖の智慧と国民の協力できつと乗り越えられると信じます。

ところで私は長い歳月を生き抜かれた人生の大先輩方の強い信念に、いつも敬服します。多少の事では負けない忍耐強さ。幼い時からの自分の思い通りにならない苦勞で培われた『免疫力』。私はそれを『心のワクチン』と名付けました。その生き方をお手本にすることで、「大丈夫！きつと時間が解決する」という大らかな気持ちになって、取り越し苦勞をするのを止めました。

2年に渡るコロナ禍で社会や家族が分断され、孤立する人々が困窮しています。こんな時代だからこそ『心のワクチン』を見直すべきではないでしょうか？

### 俳壇

通りすぐ古民家の庭七変化 釋妙水

古寺や木々ムンムンと茂りをり

たどたどし園児の願ひ笹飾り

軽やかに頬を掠める竹落葉 釋榮邦

二歳児の球蹴るさま夏夏芝生

北の友涼しさ乗せて来る便り

屋下がリタツチ一発白日傘 釋清風

合歡の花水面に艶の影映えり

短夜や未完のままに夢覚めり

手をつたう鼻血の紅し早星 釋秀龍

理容師とケーブ吹き抜く若葉風

宿題終えこうし窓から夏ひばり

### 坊守の子育て日記80

千葉県で起きた飲酒運転による児童の死傷事件を受け、とても他人事と思えません。我が家の子どもたちが通う小学校は高台の住宅街の頂点に位置します。細い道が多く、信号はなく、大きな工場へ通勤する車の抜け道で通行量が多いです。速度を上げ走り去る車は大人でも恐怖です。

交通安全の問題に加え、校区内では先月から不審者情報が二件ありました。登下校中だけでなく、習い事や遊びに行く道中も心配は尽きません。「行つてらっしゃい」と送り出した家族が「ただいま」と無事に帰ってくることは当たり前ではないのだと気がかされます。

私自身も車を運転しますので、ヒヤッとしたことがあります。登下校の間帯には通学路を避け、慣れた道でも無理をしないことを心がけています。不審者情報に関しては、やはり地域住民の方の目が重要です。子供達が出歩く時間帯に犬の散歩をするとか、畑仕事をするなどして協力して下さると、抑止力で大きな事件を防げるかもしれせん。

長女(一年生)が学校で植えた朝顔が花を咲かせています。花を慈しむ気持ちで、子供達の安全を大人の知恵と工夫で守りたいと改めて思いました。



### お知らせ

令和3年度の門信徒会費を次の予定で巡回します。訪問日は葉書であらかじめお知らせしてありますが、ご都合の悪い方はご連絡下さい。コロナで誠に恐縮ですがよろしくご協力下さい。

- ※7月31日(土)・8月1日(日)共に夕方4時から四日市市街・菰野(住職と行事長)
- ※7月31日(土)朝・近隣住宅(住職)
- ※8月1日(日)朝・近隣住宅(総代)
- ※7月下旬から8月上旬・在所(各行事) いずれもご都合の悪い方はご連絡下さい。

### カンパありがとうございます

矢田たす様、高木重明様、柴田美津代様、山中ツヤ子様、他匿名様より感謝

### ★ 編集子より ★

「善正寺だより」332号をお届けします。◇豪雨災害、ワクチン接種未だ多数の中、無理やり開催の東京オリンピック、パラリンピック。「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び・・・」(昭和天皇)の玉音放送を思い出す夏。◇長引くコロナ自粛生活の繰り返して、皆、鬱や欲求不満を抱えているが、何度も死線をさまよった旧友より手紙。「偏らない心、こだわらない心、とらわれない心」(亡き母親の遺言)で今生かされている、との由。これはまさしく仏さまのお導きの証だと感銘。◇「私の居場所はどこ！」とお味わいの女史、現生正定聚の感慨が深い。◇お盆の季節、往きし人偲び、合掌・称名。

コロナ以来オンラインとテレワークが一般的になり生活様式が一変しました。横文字のオンパレードに疎外感を感じる高齢者もいるでしょう。直接人と会わなくても仕事ができ、交流を深められたら便利ですが、でもその余った時間とおカネを私達はどのように使っているのでしょうか？他人を思いやる為、心を養い、心の眼を磨くことに使う人は少ないように思います。近年葬儀の簡略化が進み、家族葬が増えました。人は大切な人を亡くした時初めて仏様の教えが心に浸透します。先日親を見送った人が四十九日まで毎晩家族で正信偈を勤めました。当初は漢字だけの経文を唱えるだけでした。次第に意味を知りたくなりました。以前差し上げた「意訳付き正信偈」(豊原大成著、自照社刊)の黄色の経本で意味が少しずつ分り、なると、勤行が苦にならず生活の一部として習慣になり、ました。まさしく七き親が結んで下さった尊い仏縁です。私達夫婦も息子と毎晩浄土三部経(一)意訳付き)を拝読しています。何回も繰り返し返す内容が少しずつイメージできるようになりました。二千五百年前のお釈迦様の時代から人間界の苦悩は少しも変わっていない。お釈迦様はそこから救われる道をお説き下さっているのだと気づかせて頂きました。皆様もコロナを機会に日々の習慣として経文を唱えることをお勧めします。心が整えられて新たな生き方のヒントが見つかるといいですね。

合掌

令和三年八月

善正寺方守拝